



2022年8月15日

各位

会社名 キュービーネットホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 北野 泰男
(コード番号：6571 東証プライム市場)
問合わせ先 取締役管理本部長 松本 修
TEL 03-6418-9190

**個別業績の前期実績との差異及び
個別決算における特別損失の計上に関するお知らせ**

2022年6月期（2021年7月1日～2022年6月30日）の通期の個別業績と前事業年度の実績に差異が生じました。また、個別決算において特別損失（関係会社株式評価損）を計上しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 個別業績の差異について

(1) 2022年6月期 個別業績の差異（2021年7月1日～2022年6月30日）

	営業収益	営業利益	税引前 当期純利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績 (A)	973	610	612	590	46.22
実績値 (B)	742	390	242	203	15.80
増減額 (B-A)	△231	△220	△370	△386	
増減率 (%)	△23.8	△36.1	△60.4	△65.5	

(2) 差異の理由

営業収益の主な減少理由は、連結子会社からの剰余金の配当が前期590百万円に対して、当期320百万円（前期比270百万円の減少）であったことによるものであります。

また、新型コロナウイルス感染症（以下、「本感染症」という。）の影響でQB HOUSE USA INC.（以下、「QBUSA」という。）の業績が悪化したことに伴い、当社が保有するQBUSA株式について、「2. 個別決算における特別損失の計上について」に記載のとおり、特別損失（関係会社株式評価損）175百万円を計上いたしました。

以上の結果、営業収益は前期実績比231百万円減の742百万円、営業利益は同220百万円減の390百万円、税引前当期純利益は同370百万円減の242百万円、当期純利益は同386百万円減の203百万円となりました。

2. 個別決算における特別損失の計上について

現在ニューヨークで5店舗を展開しているQBUSAは、2017年6月に1号店をオープンして以降、順調に売上収益を伸ばしておりましたが、本感染症の拡大によって業績が悪化いたしました。本感染症の影響が長期化したことに伴い、当社が保有するQBUSAの関係会社株式の帳簿価額に対して、実質価額（QBUSAの純資産額）が低下したため、株式価値の回復可能性を検討してまいりました。

ニューヨークの市場規模、直近の業績の回復状況及び今後の事業計画等から、中長期での回復可能性は十分に見込まれるものの、短期間での回復は困難と見込まれるため、関係会社株式の帳簿価額と実質価額との差額175百万円について、特別損失（関係会社株式評価損）を計上いたしました。

なお、当該特別損失は、連結決算において相殺消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

以上